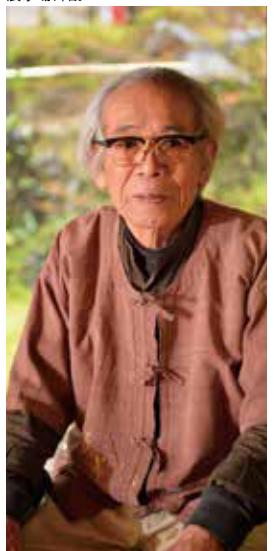




展示場外観



常設展示場



絵唐津



登り窯



中里 重利
Shigetoshi Nakazato

12代中里太郎右衛門（無庵）の三男として生まれる。唐津市に生まれる。1944年より父のもとで修業した後、三玄窯を開窯・独立。

- 駐車場（5台）
- 作業風景見学
- 体験教室
- 要連絡

窯印・作家印▶

三玄窯 中里重利陶房



古唐津・茶陶からはじまる。

12代中里太郎右衛門（無庵）の三男として生まれ、作陶家になることが宿命だった。歴史ある唐津焼の名門に育ったゆえに、「古唐津の良さ」を常に追い求めてきた。「土の眠りを覚まし、語らせてみたい。燃えさかる炎をくぐらせ、新しい世界を拓きたい」三玄窯のしおりには重利さんの唐津焼への想いがそう記されている。

お茶の世界にも造詣が深く、「この世にお茶がなければ器はただの民芸で終わっていた」と重利さんは語る。利休の美をとらえる目の捉え方、創造性。茶陶の世界は奥が深いようだ。古唐津をベースとしながらも、自分なりの創造性を加味し、重利さんの器が生まれている。

